

Campus キャンパストピックス Topics

大学

第3回オープンキャンパスに1,522人が来場



見学や講義を終えた高校生は、大学への期待と意欲を膨らませ、入学後の自分の姿を思い描いているようでした。また、保護者や付添者からも満足したとの声が多く寄せられました。

また、「保護者向けガイダンス」では、本学の理念や入学後の学生支援体制、キャリア教育・支援などについて各担当者が説明を行い、参加された方は熱心に耳を傾けていました。さらに、第2回オープンキャンパスで実施した公募制推薦入試対策講座(国語・英語・小論文)のDVD上映では、第2回オープンキャンパスに参加することができなかった受験生を中心に、満席になるほどの盛況ぶりであり、いよいよ間近に迫ってきた公募制推薦入試に向けて、傾向と対策についての最終確認を行う姿がとても印象的でした。

9月21日、本年度最後となる「第3回オープンキャンパス」が開催されました。5・7月に引き続き、長久手・星が丘両キャンパスの雰囲気や施設を体感できる機会とあつて、県外からもたくさんの方にご来場いただきました。

第1・2回オープンキャンパス同様に、入試相談、学科(専攻)相談、キャンパスツアー、特別企画、淑トークなどの企画には多くの参加者が集まっています。

片山ゼミ×都市環境デザイン専修「Colorful room」展



片山ゼミでは、表現者として追求するテーマを各自が設定し、様々なアプローチで研究・制作を行っています。今回はその中で、3年前期の授業で習作を制作した学生が展覧会に参加しました。

このメンバーにとっては初めての展覧会でしたが、展示空間の中で作品をより良く見せるための方法や、その展示を実現する為に必要なプロセスを、都市環境デザインコースのメンバーと話し合い、実際に一から空間作りを体験しながら学ぶことが出来た、とても貴重な機会となりました。(片山)

都市環境デザイン専修では、「ミニギャラリー」と呼ばれるスペースを利用して実習課題の優秀作品展や、学外から建築分野で活躍されている方をお招きしての展覧会・講演会を継続的に開催しています。これまでは都市・建築分野に限定した展示でしたが、本年度は初めての試みとして、同じ学部の他専修・メディア表現専修の片山ゼミを招待し、10月27日～11月7日にかけて展覧会を行いました。

会場の設計・施工は両専修の学生が意見を出し合って作り上げました。結果として、これまであまり交流のなかった専修間で、互いの専門分野を尊重した話し合いの場が生まれたと思っています。(水谷)

愛知中央青年会議所 百年森映画祭「未来(100年後)へのとびら」上映会



一般社団法人愛知中央青年会議所が企画した映画制作プロジェクト「百年森映画祭」に、メディアプロデュース学部の石丸ゼミを中心とする本学の学生100人以上が参加しました。地域映画づくりの実績のある石丸みどり先生の指導・支援のもと、学生たちは地域の人々との話し合い、脚本制作、撮影、編集など初めてのことにも果敢に挑戦し、自分たちの持てる力を注ぎました。

映画のタイトルは、「未来(100年後)へのとびら」。主人公の大学生が、小牧長久手の戦いが繰り広げられていた430年前にタイムスリップし、戦場で出会った若武者と心を通わせながら、現代の「まち」や未来と向き合っていくというストーリーです。

10月16日には、完成した映画の上映会が、長久手市内の大ホールで開催されました。開場前から長蛇の列ができるほどの大盛況。地域の未来を拓く希望を伝える映画に、来場した皆さんは惜しみない拍手を贈りました。学生たちは今回のプロジェクトを通して体感した「まちづくりのパワー」を糧に、学修・研究にいつそう励み、地域や社会に貢献する人へと成長していくでしょう。

Campus キャンパス キトピックス Topics

大 学

高校生対象「体験講義2014 ～見て、聞いて、触れて授業体験!～」を開催



本学教員による各学部・学科（専攻）の授業を在學生と共に受講できる「体験講義」を、12月25日に実施しました。高校生を対象としたこのイベントは毎年好評で、今年度の応募者数は長久手・星が丘両キャンパス合わせて延べ250人程。開会式では初年次教育部門長・小倉斉先生が「体験講義の副題『見て、聞いて、触れて授業体験』の通り、今日は本学の授業に参加し、大学で学ぶ目的や意義を考えてみましょう」と語りかけました。高校生はその思いに込めるように、真剣なまなざしで各授業に臨み、教員の言葉を熱心に書き留めていました。また、個別相談コーナーでは、学部の特徴や学生生活、入試などについて積極的に質問する姿も多く見られました。文学部国文学科の授業を受けた高校1年生が「文学作品を深く読み解くという、専門的な学びのおもしろさを実感しました」と語ったように、参加した一人ひとり、大学での学修への期待感や向学心を高めていました。

愛知淑徳学園キャンパス整備工事の地鎮祭・安全祈願祭を実施



1月9日、長久手・星が丘両キャンパスにて実施される愛知淑徳学園キャンパス整備工事の着工に先立ち、新フットサル場建設予定地（現・クラブハウス敷地）にて地鎮祭並びに安全祈願祭が挙行されました。祭場には、小林素文理事長や島田修三学長をはじめとする大学関係者20人、設計監理を行う（株）日建設計と施工を行う（株）竹中工務店の方々14人が参加しました。厳肅な雰囲気の中で、地鎮行事、玉串奉奠等、すべての祭儀が滞りなく執り行われました。参列者一同が神酒を拝戴し、工事の安全と守護を祈願して、地鎮祭並びに安全祈願祭をめでたく納めました。

全学一斉・全員参加の「防災訓練」を実施



大規模地震災害や火災への備えを全学的に強化するために、12月12日に「防災訓練」を実施しました。第2限を50分の短縮授業とし、学生や教職員はもちろん、実施時間帯に学内に滞在するすべての人の協力のもと、避難訓練、初期消火訓練、救護訓練などを行いました。地震発生時の想定時刻は12時。緊急地震速報放送、避難指示放送が流れると、参加者全員が落ちて退避行動をとり、長久手キャンパスはグラウンド、星が丘キャンパスは中高テニスコートへと避難しました。学生は学部・学科ごとに整列し、教員が一人ひとりの安否を速やかに確認。その後、学生や教職員は消防署の方からレクチャーを受け、AEDを使った救命処置、担架や車椅子の安全な運び方など、命を助ける手立てを学びました。参加した学生は「万が一のとき、自分自身の命はもちろん家族や地域の人々の大切な命も守れるよう、今回の防災訓練で学んだことを実践します」と力強く語りました。

Campus キャンパストピックス Topics

中学校・高等学校

高3の斉藤さん、荻島さん、中3の山口さんが英検準1級に合格



左から斉藤侘奈さん、山口芽依さん、荻島千里さん

実用英語技能検定(英検)準1級は、大学中級程度という高レベルの資格です。2013年度の合格率はわずか15%。今年度、高校3年生の斉藤侘奈さん、荻島千里さん、中3年生の山口芽依さんがこの難関検定試験を突破し、合格を果たしました。3人も幼い頃から英語が身近にある環境で育ち、小学生のときには英検2級を取得。愛知淑徳に入学後、英語の授業で力を伸ばし、さらに、英字新聞や洋画などを活用した勉強などにも励みました。

「7月にバスケットボール部を引退してから、英検準1級に挑戦しました。卒業後は、留学の制度が整った上智大学に進学します。グローバルな視野を持ち、理工学部で学修や研究に打ち込みたいと思います」(斉藤さん)。「今回ネイティブの先生が面接練習のサポートをしてくださったおかげで、合格を手にすることができました。培った英語力を大学受験でも発揮し、将来、国際社会で活躍できるよう英語以外の言語も学んでいきます」(荻島さん)。「英語が話せると世界が広がる」と母に教えられ、英語の勉強に熱中してきました。高校では英検1級をめざし、大学では海外留学にもチャレンジして、自分の可能性を広げていきたいと思えます」(山口さん)。

第25回卒業生を迎え、ホームカミングデーを開催

のホームカミングデーと同様、同窓生のつながりが深まっていることを感じています。



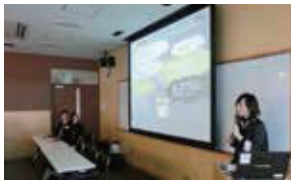
10月18日、今年で6回目のホームカミングデーを開催しました。高校第25回の卒業生が還暦を迎えるのを機に、同窓生が母校に還る日、ホームカミングデー(還暦同窓会)を学校と同窓会が共催で行いました。

当日は163人の卒業生と卒業時の担任を始めとする16人の先生方に参加していただきました。センターホールにて会を始め、参加教員の紹介と学園70周年記念映画の上映を行いました。在校中の行事や建物に当時の高校生活を懐かしく見てくださいました。

その後、清明館のカフェテリアにて会食、懇談となりました。食事をもにしながらいつそうなやかな雰囲気できがやかに旧交を温めていただきました。最後は同窓生のピアノ伴奏による校歌合唱で会は閉じられました。

いつの年のホームカミングデーでも同窓会役員とその学年の方々による現住所の確認から始まる「時間」と「手間」のかかる準備を重ねられたことに感謝し、この会が今後も続くことを願っています。また今年度は他にも50歳、40歳の同窓生の会も開かれたと聞いています。このホームカミングデーと同様、同窓生のつながりが深まっていることを感じています。

“リケジョ”出前授業を実施



12月19日、高校2年生の理型3クラスを対象にトヨタ自動車(株)の女性エンジニアの方による出前授業(講演会)を実施しました。トヨタはダイバーシティ尊重の人事施策の一環として、理系に進学する女子学生を支援しています。講座内容は「キャリア(学生時代および入社後)」「具体的業務内容」学生時代に学んだことと業務の関係「後輩に伝えたいこと」でした。印象的だったのは「コーディネーターの方も講演者の方も「最も大事なことはコミュニケーションと同時に、周りを巻き込みながらチームワークを意識すること」だと話されたことです。何をしても一人では作ることができないが、自分の考えや目標を伝えながら、コミュニケーションをとり、高品質で低コストの商品を量産できることに魅力を感じる」ということでした。そして、常に「なぜだろう?」という気持ちで大切にし、自分の手で調べ、追求しているとのこと。愛知淑徳が行事のねらいとしている「コミュニケーション力」「解決思考力」と同じであることに嬉しく思いました。教科の学習も大変大切なものですが、それだけでは社会で通用しないということが生徒にも伝わったのではないかと思います。

中学校入試説明会に1,100人が来校



中学校の入試説明会が、10月25日に行われました。今年は、午前・午後あわせて約1100人の方々にご来校いただきました。

午前は主に小学校6年生対象に行われました。大アリーナで行われた全体会では、中学吹奏楽部の演奏に引き続き、校長挨拶、映画「わたしの淑徳」上映、副校長から出願の注意など入試に関する説明がありました。その後、試験会場の下見を兼ねて教室に移動し、実際の試験会場の机に座って、平成26年度入試問題解説ビデオを見て頂きました。午後の部は、小学校5年生以下を対象として実施し、中高ギターマンドリン部の演奏からはじまる全体会と校内見学等の企画が行われました。また、午前・午後ともに、希望者対象の個別入試相談に加え、中高生徒会執行部による「淑徳生に聞いてみよう」企画も行われました。そして今回新たに、午後の一部クラブ体験(ソフトボール部・バドミントン部・卓球部)を実施し、約100人の方が参加しました。

今年も問題解説を真剣に見る親子や、本校教員や生徒に話を聞く姿、校舎内を興味深く見学する様子が見られました。2月1日の入試本番に向けて熱い思いが伝わる入試説明会となりました。